

第 351 回月例会議事録

安全技術応用研究会

承認

記録

企画運営委員長
保 科企画運営委員
森

◎ 日 時：2022年12月16日（金）13時00分～17時00分

◎ 場 所：リモート開催（Zoom）

◎ 出席者：36名（企業・団体会員14名、個人会員16名、他6名）

1. 開会挨拶・トピックス紹介、他

13：00～13：06 企画運営委員会

- 特記事項なし

2. 講演「安全、健康、ウェルビーイング」

13：07～14：44 明治大学名誉教授

向殿 政男 氏

概要

「これからの労働安全衛生で、極めて重要な概念となる「安全、健康、ウェルビーイング」を紹介する。

働く人の安全、健康、ウェルビーイングの向上を目指すことは、これまでの主として怪我をしない、病気をしない等のネガティブ（マイナス）の面（領域）に目を向けていた労働安全衛生活動を、明るく前向きに安心して仕事をするといったポジティブ（プラス）の面（領域）に向かわせることになる。

これにより、企業の経営トップに対して、労働安全衛生に対して、コスト意識から投資への意識変革を促すことになる。

3. 報告「安全確認型研究会活動状況」

14：54～15：50 安全確認型システム研究グループ 主査

佐藤 国仁 氏

概要

安応研のベースの更にベースとなる安全確認型システムの第一回研究報告

- ・ 定義の再検討を目的と定め議論をかさねた。（18回実施）
- ・ 基本定義：安全が確認されたときのみ、機械の運転を許可するシステム
- ・ 補助定義：3つ定めた。
 - ① 機械が運転される状態は、安全、危険、不明の3階層が想定される（三値で表現）。不明状態があることを認め、それを安全と見なさない。ゆえに危険を検知してそれを否定しても、安全とは証明されない。
 - ② 確認をエネルギー伝達に基づく。ユネイトでフェールセーフな機構であること。（これによって誤りのない状態をつくりだす）
 - ③ 運転許可とは、起動と運転継続の双方を指す。

4. 講演「安全工学基礎講座 第9回 ISO/IEC Guide 51(JIS Z 8051)の再確認」

16:00～16:57 安全技術応用研究会 企画運営委員 福田 隆文 氏

概要

過去に ISO/IEC Guide51 について、ザッと説明した。その中で、このガイドは規格作成のためのガイドであること、国際規格で安全を検討するための「安全の定義」がされていることを紹介した。併せて、1990年版、1999年版、2014年版の変遷について説明する。

5. その他

- ・次回第352回月例会は、1月20日（金）13時00分～17時00分にリモートで開催予定。

月例会説明資料：ホームページ内の会員専用ページにて掲載

以上